

飯塚キャンパスパス PORTO (ポルト) 棟 —産学官の生涯学習の場と、それによる イノベーションの共創空間—

九州工業大学・情報工学研究院長 安永 卓生

今回、飯塚キャンパスに新たに、共創の場、共創空間としての PORTO (ポルト) 棟が建設され、令和4年度から、戸畑の共創空間である「GYMLABO」と連動しながら、利用が開始します。現在の学生を含め、卒業生の皆様、学外からの来客の皆様にとつての新しい流れ、そして、ムアリング (繋留: mooring) の場になることを期待しています。

ここでのキーワードは、「協働」、「共創」です。これまで、飯塚キャンパスには、学びの協働の場として、4つの空間が用意されてきました。知識構築の場としてのインタラクティブ学習棟 (MILAIS)、知識展開の場としてのデザイン工房、知識統合の場としてのコモンズ (Learning Commons@図書館)、そして、知識伝達の場としてのアトナ (Learning Agora) 棟です。学生たちはこれらの空間の中で、コロナ禍前まで、協働学習を実施してきました。

共創の「場(ば)」:PORTO (ポルト) 棟



飯塚キャンパスにおける共創空間

加えて、企業との協働の場の構築も進んでいます。具体的には、研究棟 (東棟) の改修が進んでいますが、産学連携施設として、2階にオープンスペースが完成予定(令和5年夏)



飯塚の玄関としてのポルト

です。従前より、起業に向けたインキュベーション施設が準備されています(現在、この改修工事により、引越先として利用されているため、開店休業状態です)。それに先駆けて、まず、皆さんを、オンラインで、オンラインでお迎えする空間としての、ポルト棟の新築となりました。

来年度に入ると、少しずつ大学での活動が正常化していきます。その中で、これらの施設を使って学生たちが様々な活動を行うことを期待しています。

PORTO (ポルト) 棟

ポルトというのは、ラテン語系では、「港」を表す言葉です。例えば、ポルトガルという国名も「ガレの港」に由来しているそうです。想像通り、英語の港を指す Port も同源で、ラテン語の portus (港)、元々は portare 「持ち運ぶ」が語源といわれています。「港」は、大航海時代以降、ポルトガルやスペインといった国々が、世界へと広がっていく重要な (important) な出入り口となりました。新大陸であるアメリカも、ヨーロッパからの移住者たちが街作りを行い、ボストン港をはじめとした「港」が交流とその後の米国発展の窓口となりました。現在でも、「空港 (airport)」も含め、グローバルで、フラットな世界を物理的につなぐ重要な出入り口であり続けています。そこで、私たちは、今回飯塚キャンパスにできる新しい共創空間に、この言葉をあてました。

多くの来客・知識・技術などがオンラインおよびオンラインで入り込み (Import) し、この空間で、あるいは、この空間を通して、キャンパス内の多くの場所でシナジーが生



飯塚キャンパス周辺の共創空間

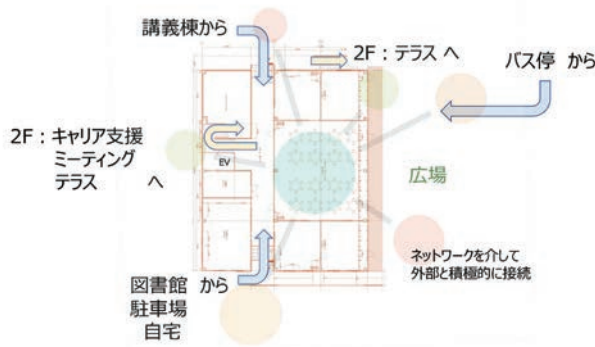
み出され、そして、多くの学生や知識・技術などが発出される場となるようにという思いを込めました。もう一つのここで大事な考え方は、九州工業大学・情報工学部が、飯塚という大学町において、ひとつの大きな中心として、そして、外部との行き来をするための「港」としての機能をもつべきであろうということです。飯塚キャンパスの周辺には、情報工学部の卒業生が起業したベン

チャー企業や共同研究先の企業のサテライトオフィスが存している、福岡県立飯塚研究開発センター、及び福岡ソフトウェアセンターが、歩いて移動できる範囲にあります。また、飯塚市役所・飯塚市の中心までも3kmほどの距離にあります。この飯塚の地で、情報技術を活用した、新たな知の創出・イノベーションが生まれる場の広がり、そして、その中心となることが望まれます。さらに、ポルト棟は、飯塚市ふるさと納税制度も活用して、産学連携の機能を持つための設備として強化します。続く、研究棟東棟2階のオープンスペースも同様です。多くの皆さんの寄付金を活用して、「つながる」ことで生まれる共創の場を整備していきます。

また、デジタルサイネージの機能などを活用して、オンラインで、戸畑キャンパスともつながります。九州工大の「共創空間」として利用形態、運用も連携していきます。

文部科学省は、第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日）の中で、大学の施設は、キャンパス全体が有機的に連携し、あらゆる分野、あらゆる場面で、あ

人の流れとムアリング（繋留）



ポルトへの人流と繋留

らゆるプレイヤーが共創できる拠点「共創」の拠点として、「イノベーション・コモンズ」の実現を目指すことが謳われています。さらに、国立大学の方向性として、「高度な専門性を身につけた人材の育成拠点としての役割」をもつ頭脳循環の中心たらんことをミッションとすることが期待されています。

九州工大もまた、今回の「共創空間」を中心として、これまで以上に、外部とのインターフェースを作り、

人材と知の流れのプラットフォームとして対応していくことを目指すこととなります。

ムアリング（繋留）の場

ポルト棟は、講義棟、インタラクティブ学習棟、図書館等に囲まれた空間に建設されています。多くの学生たちにとって、講義棟やアグラへつながる、最初の場となることを想定して、建設場所を設定しました。バス停からも近く、講義の始まる前、また、終了後も学生たちが、ポルト棟に一時、立ち寄ってもらえればと考えています。戸畑のGYMLABOがオープンスペースとして、長期の貸出スペースがあるのに対して、飯塚の共創空間であるポルト棟は、ムアリング（繋留）スペースとして、位置付けています。

まず、ポルト棟の前には、駐車場も用意しています。これは、学外からの来客が車で来られた場合に、ポルト棟にできる限り容易にアクセスし、入館してもらうことを想定し、用意しました。

続いて、ポルト棟の1階に、3種・6室の部屋を用意しました。第1の部屋は、中央の港の広場となる、

学生の繋留地としての学び



学修空間としてのポルト

「ワークスペース」です。各種のイベントや説明会が催されることを期待していただきます。学生達は、キャンパスライフの中でも、このイベントの存在を感じてもらえます。また、普段は、学生や来訪者に開放されていて、自由に会話することを通して、学習や交流をしてもらうことを期待します。この部屋には、戸畑のGYMLABOと連携した、サイネージ・システム

「ワークスペース」です。各種のイベントや説明会が催されることを期待していただきます。学生達は、キャンパスライフの中でも、このイベントの存在を感じてもらえます。また、普段は、学生や来訪者に開放されていて、自由に会話することを通して、学習や交流をしてもらうことを期待します。この部屋には、戸畑のGYMLABOと連携した、サイネージ・システム

最後に、ワークセッション・スペース (Coworkation Space) です。ここでは、飲料の提供も予定しています。皆さんは既にご存じかとは思いますが、ワークセッションとは、新しい働き方のなかで、「Work (ワーク)」と「Vacation (バケーション)」の造語で、普段の職場とは異なる場所です。働きながら、休暇取得等を行う、テレワークと心身の健康、そして、生産性を両立できる働き方を指します。学内で休暇といったところまでは難しいですが、講義室等とは異なり、「くつろぎ」ながら、友人や来客者と共に語らえる場をつくってあげればと考えています。

が動いており、情報共有が可能です。次は、その周辺の4室のワークルーム (Workroom) / 外部の方も予約可能) です。この4室は、可動壁を取り払えば、大きな2つの部屋としても利用できます。ここでは、情報工學部の大学院改組に伴う、多くの産学連携での講義やセミナーが実施され、学生と社会が繋がっていきます。

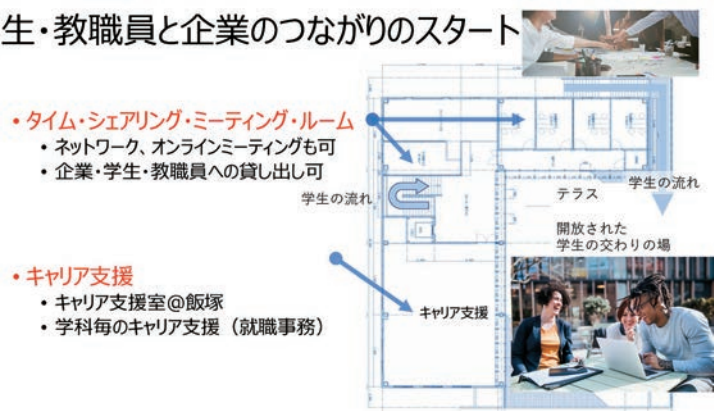
さらに、ポルト棟の2階には、タイムシェアリングミーティング・ルーム (奨学金) をもつ博士後期課程の学生たちが集まり、情報交換する場と

ポルト棟の2階には、令和4年4月中旬に、飯塚・キャリア支援室を移設します。また、令和4年の夏前ごろには、これまで各学科に分かれていた就職支援業務も移動・統合し、一体で運営することとなりました。リクルーターとして、来訪される方は、最初に訪れていたければ、ご対応・ご相談ができるようになります。

しても醸成していく予定です。ここに集う皆さんの意見を参考にしながら、大学という知を創出する場に必須の、くつろぎ空間を作り上げていきます。いずれの場所でも、オンラインでの接続環境を、学内者はもちろんのこと、外来者向けにも用意し、オンラインでの接続を通じた、繋留の場となってもらえることを期待しています。

キャリア支援室

学生・教職員と企業のつながりのスタート



連携空間としてのポルト

にオープンなスペースでの面談、そして、今回のミーティングルームのような個室での面談、状況に応じて使い分けてください。もちろんこちらの部屋は、リクルート以外の目的にも利用できます。さて、これらの部屋の予約システムは、戸畑のGYMLABOと共同運営になっています。本学の教職員、学生の予約はもちろんのこと、学外の皆さんも、会員登録していただ

れば、いずれの施設でも、予約して利用することができま

キャリア・オーナーシップと場

今回、九州工業大学では、執行体制が、機構・部門といった制度から本部制へと変わっていきます。その中で、教育接続・連携PF推進本部（仮称）が設置されます。この本部の目的は、小中高大接続教育、及び、キャリア支援、卒業生を含めた、リカレント・リスキリング教育といった、生涯を通じた学びの場として、九州工業大学をプラットフォーム（PF）として位置付け、学び続ける環境を醸成することです。

その中で、今回のポイントは、「キャリア・オーナーシップ」という考え方です。「我が国産業における人材強化に向けた研究会」報告書（経済産業省、2018年）のなかでは、「個人一人ひとりが『自らのキャリアはどうありたいか、如何に自己実現したいか』を意識し、納得のいくキャリアを築くための行動をとっていくこと」とされています。それが故に、大学もまた、先端研究を行って知を創造し、発信することに留まらず、学生はもちろん、大学

という場で学ぼうという意思を持つ、小中高校生及び卒業生・社会人が、共に学び合う場をつくっていくこともミッションになりました。これは、リカレント（一度大学に戻って学ぶ）やリスキリング（企業に所属しながら、生涯にわたって、自らの新たなスキルを身につける）といったことでは必要とされていることに対応します。

今回の共創空間は、「キャリアオーナーシップ」を醸成するために、学内のみならず、学外の皆さんと協働することにより、新しい知を生み出す場として九州工大が提供していく、物理的なオンラインサイトの空間です。また、オンラインでの接続を通して、サイバー空間とも連結し、サイバー・フィジカル空間として一体化した空間です。この空間を利用して、飯塚という地にあっても、関東圏や関西圏を含んだ遠隔で働く方々、及び小中高などの異なる学制に所属する方達が共に学び合い、自らのキャリアオーナーシップを高め合う空間となることを期待しています。

さらに、九州工大はリカレント、リスキリングのためのプログラムや

講座も用意していく予定です。私たちは、リカレントを「学び直し」として捉えず、これまでのキャリアを活かした上での「学び増し」と捉えています。

是非、卒業生の皆さんが、在生と交わる機会を積極的にもっていただき、我々教員も職員も含めて、共に高め合っていければと思います。

情報工学部学府改組とシナジー

大学院・情報工学府は、令和4年より大幅に改組します。学生の学びにとつての重要なポイントは、第1に、大学院レベルの、最先端の情報工学を学ぶプログラムを全員が履修すること、第2に自分自身の専門分野の体系だつた学びを得ること、第3に、社会と連携した学習プログラム（社会駆動プログラム）を修得すること、最後に、グローバルに活躍できる人材を目指すコミュニケーション力と教養を身につけるプログラムを履修することにあります。社会人向けにも提供される予定です。産学連携を含めた、外部と協働する学びの機会をつくりま

その中で、この共創空間が果たす役割は大きく、まさに、「港」とし



R4年度からの情報工学府の改組

て、外部との接続の窓口です。

一方で、我々教員もまた、アドバイザーボードを設置し、社会と連携する学びの在り方を模索することを目指します。皆様と、共創することを通して、「シナジー効果」が生み出され、この高度情報化社会、Society 5.0を支え、発展させることができるエンジニアを育てていきましょう。皆さんのオンラインでの来訪をお待ちしております。